

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	萩市		代表者名	市長 田中 文夫	
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	総合政策部DX推進室	連絡先電話番号	0838-21-5477
担当者役職	室長補佐	担当者氏名	山本 剛	連絡先E-mail	
住所	758-8555 山口県萩市大字江向510番地				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	DX推進員研修・課長級職員向け研修		
概要	「DX推進員」「課長級職員」に対するDXマインドセット研修会の開催				
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成）				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年7月10日	講演(実地)	13時30分	15時30分	
				活動時間（分）	120
2-2. 派遣場所	会場名	萩・明倫学舎		最寄駅	
	所在地	山口県萩市大字江向602番地		最寄駅からの交通手段	https://www.city.hagi.lg.jp/site/mekingakuha/access.html

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	森戸 裕一
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	令和4年度から継続して支援をお願いしている「DX推進員研修」「課長級職員向けDX研修」の中の「DX推進員研修」でした。こちらの要望に沿った職員（DX推進員）の意識改革に繋がる研修を自治体の事例を交えながらお話をいただきました。研修の中では、事務局であるDX推進室にも役立つアドバイスをいただき、今後何をすべきかの道筋が見えた。
アドバイザーへの要望事項	次回の「課長級研修」では、グループワークでDX推進員が書き入れた資料も活かした内容として引き続きお願いしたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	26人
	属性	企業・団体	その他(学生など)
	自治体職員	0	0
	住民	0	0
	人数	26	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	萩市では令和3年度7月にDX推進の専門部署を設置し、「DXによる幸せなまちづくり」を目指してDX推進に取り組んでいる。現時点では、DX推進室が中心となり、国策定の自治体DX推進計画に掲げられた内容を主に取り組んでいるところだが、各部局での自発的な取組は過去の本事業の取組により徐々に広がりを見せてはいるものの、まだまだ不足しており、職員のさらなる育成（DXマインド醸成・ITリテラシー向上）が課題となっている。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	「課長級職員」ならびに各部局に配置している「DX推進員」に対して研修を行っていただくが、以下を目指す成果とします。共通してDXに対する理解と積極的な姿勢を持つこと。「課長級職員」については、BPRの推進により、無駄な業務を削減し、より付加価値の高い業務に所属職員を集中させることなど。「DX推進員」については今年度導入を予定している生成AIの活用方法を理解し、実践すること、所属長に対してDXに関する具体的な提案を行い、所属全体のDX推進をサポートすることなど。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	自治体職員に今後求められることは、膨大な事務作業に時間を費やすのではなく、デジタル等を活用して事務作業を効率化し、より政策立案や住民サービスに力を傾けることが必要だということや、他市の好事例を踏まえながらお話いただき、萩市の立ち位置を職員に伝えていただきました。デジタルデバインド対策では高齢者ではなく、教える側の立場にある人をターゲットに行った方が良くことや、グループワークでは、単純に人口減少や高齢化は課題ではなく単なる「事象」であり、現状と目標とのギャップ(差分)が課題であるをご教示いただきました。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	デジタル化イコールDXと認識していた職員が多かったが、本研修を受けてDXとは何かということが明確になり、自治体職員・推進員として何を意識して今後どう動くべきかを考えるきっかけとなり、DX推進室としても、職員全体への普及啓発、モチベーションアップに繋がる働きかけの必要性を感じることができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	<input type="checkbox"/> ⑦その他 研修会の実施、研修資料の提供
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	3回目の支援において、課長級職員向けDX研修を開催予定	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 受講目標が達成できたと感じている職員が約8割であったが、DXの必要性は全員(10割)が感じている結果となった。また、今後利用してみたいデジタルツールとしては、LoGoフォーム、Kintone、生成AIが多いという結果となったため、DX推進室としても継続して情報発信を実施する。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	<input type="checkbox"/> ④予算以外で、今後取組む事項がある まずは、アンケート結果を元に研修などを企画検討する
4-4. 事業の最終的な目指す姿	公共サービスのデジタル化やデジタルを活用した地域産業課題に対する施策を立案しやすくする環境の整備を目指すことにより、行政手続きの時間削減や、地域事業者の競争力向上による地域活性化に繋げる。	
5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可		
掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/
なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください		

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

